

アドミニストレーションの系統樹

渡邊 榮文

内容目次

1. はじめに
2. 系統樹の意味と意義
3. 系統樹の種類
4. 系統樹と分類表
5. アドミニストレーションの系統樹

1. はじめに

なぜアドミニストレーションの系統樹か。

アドミニストレーションは多岐にわたって現われる。アドミニストレーションの多岐性である。アドミニストレーションが多岐にわたると、多くの個別具体のアドミニストレーションの位置、それらの間の相互関係は判然としない。アドミニストレーションの多岐性を体系化し一目瞭然ならしめるのは系統樹である。アドミニストレーションが多岐的な現象であればあるほど、それだけますますアドミニストレーションの系統樹が必要になる。

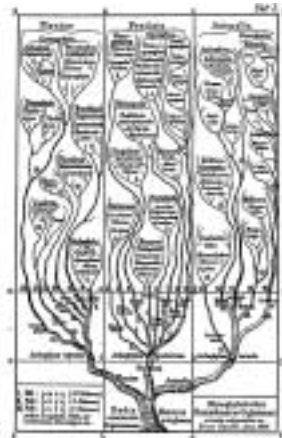
本稿はアドミニストレーションの系統樹の課題に取り組むために以下の構成をとる。これまでの研究には「アドミニストレーションの系統樹」に関する業績は見当たらないから、まず系統樹一般の意味と意義を押さえておきたい。ついで系統樹にはさまざまな種類があるので、それらを見てみたい。さらに系統樹と「分類表」との違いについて検討したいとおもう。最後にアドミニストレーションの系統樹を試論的に提示してみたい。

2. 系統樹の意味と意義

(1) 系統樹の意味

「系統樹」は、『広辞苑』（第六版）によると、「生物の系統関係を描いた樹状図」である。それはドイツの「ヘッケルが名付けて提唱した」とある。系統樹の本来の姿は生物の系統を描いたものである。ヘッケル(Ernst Heinrich Haeckel, 1834-1919)が描いた樹状図はまさに生物の「系統樹」(Stammbaum)であった。

図2 ヘッケルの生物の系統樹



備考) 三中信宏著『生物系統学』東京大学出版会、1997年、ii 頁による。

(2) 系統樹の意義

系統樹の意義は何だろうか。史上にさん然と輝くフランスの『百科全書』をデイドロ（Denis Diderot, 1713-1784）とともに20年以上の歳月を費やして編集したダランベール（Jean Le Rond d'Alembert, 1717-1783）は、人間知識の系統樹の意義について語った。系統樹（arbre généalogique）は、人間知識のさまざまな部分を「同一観点の下にまとめ、また、それらの起源とそれらが相互に持つつながりをはっきりさせる役をするものである¹⁾」。

時代が下って『系統樹思考の世界—すべてはツリーとともに—』は、「系統樹はさまざまなもの（生物・無生物）を系譜に沿って体系的に理解するための手段²⁾」であるという。

系統樹の意義は森羅万象の系譜の体系的把握にある。生物の進化過程の系統樹が人間と動物との連続性を知らしめ、人間を徹底的に動物界に投げ戻すように³⁾、本稿のアドミニストレーションの系統樹はパブリック・アドミニストレーションとプライベート・アドミニストレーションがアドミニストレーションの分化現象であることを認識せしめる。

わが国の公と私との関係は上下または優劣のそれであった。両者の関係はけっして同一の地位または同じ位置のそれではなかった。両者の関係は従来とは歴史状況を異にする今でもなお公私双方に残滓として見られる。かかるわが国の歴史状況において、アドミニストレーションの系統樹は公（パブリック・アドミニストレーション）の私（プライベート・アドミニストレーション）に対する上位または優越の地位または位置を否定するのである。

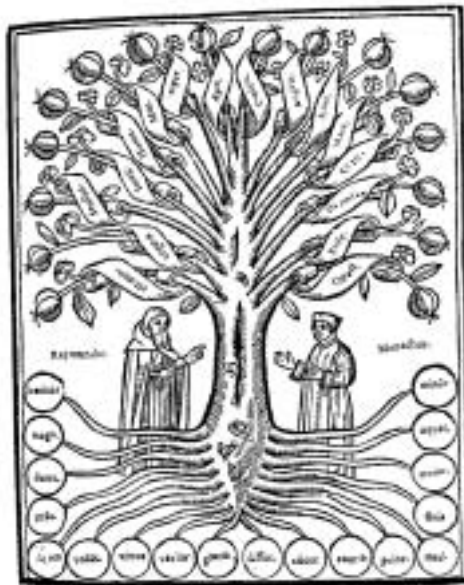
3. 系統樹の種類

系統樹は、しかしながら、生物の系統樹に限定されない。系統樹には書体の系統樹⁴⁾、言語の系統樹⁵⁾などがある。

本稿は、いうまでもなく、系統樹一般を検討するものではない。アドミニストレーションの系統樹が本稿の直接の検討対象である。しかし、現在それは未成である。それゆえ本稿はアドミニストレーションの系統樹の作成に参考になるとおもわれる既成の系統樹をアト・ランダムに選び出し、ざっとみておきたいとおもう。

「学問の樹」はルル（Ramon Lull, 生年没年不詳）が1295年に樹（tree）をモデルに学問を樹状にしたものである。

図3-1 ルルの学問の樹



備考) 三中信宏著・前掲書『系統樹思考の世界』91頁による。

ルルの学問の樹は以下のとおりである⁶⁾。まず、ルルの学問の樹の根は神の九つの絶対的品格を意味する。それらは左から反時計回りに順に「善」、「偉大」、「永遠」、「力」、「叡智」、「意志」、「美德」、「真実」および「栄光」である。ついで、これらに続く九つの根は相対的原理である。それらは「相違」、「一致」、「対立」、「端緒」、「中間」、「終局」、「多数」、「同等」および「少数」である。さらに、幹から16本に分かれている枝は個別の学問分野を指している。それらは左から時計回りに順に「元素」、「植物」、「感覚」、「想像」、「人間」、「道徳」、「皇帝」、「使途」、「天界」、「天使」、「永世」、「聖母」、「キリスト」、「神」、「範例」および「問題」である。

ルルの学問の樹は後世のベーコン（Francis Bacon, 1561-1626）に影響を及ぼした⁷⁾。図3-2はベーコンの学問の分類である。

図3-2 ベーコンの学問の分類（その1）

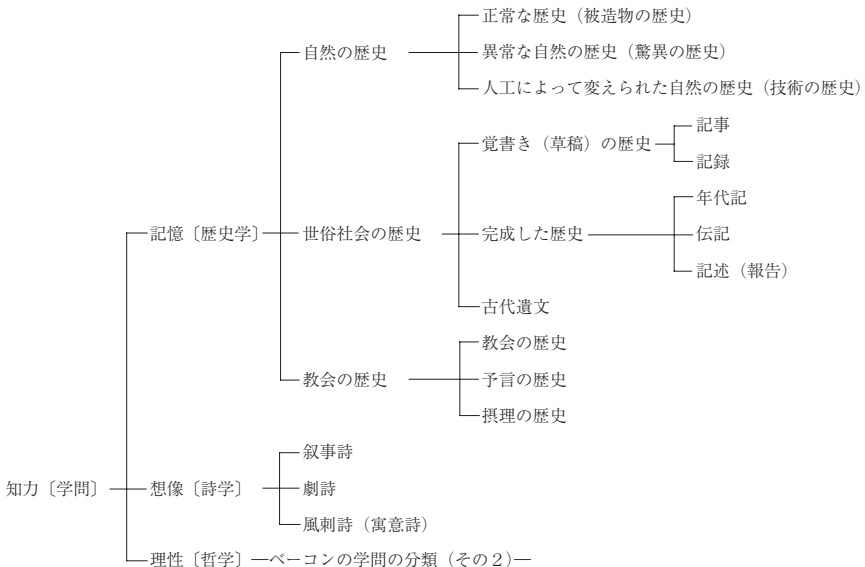
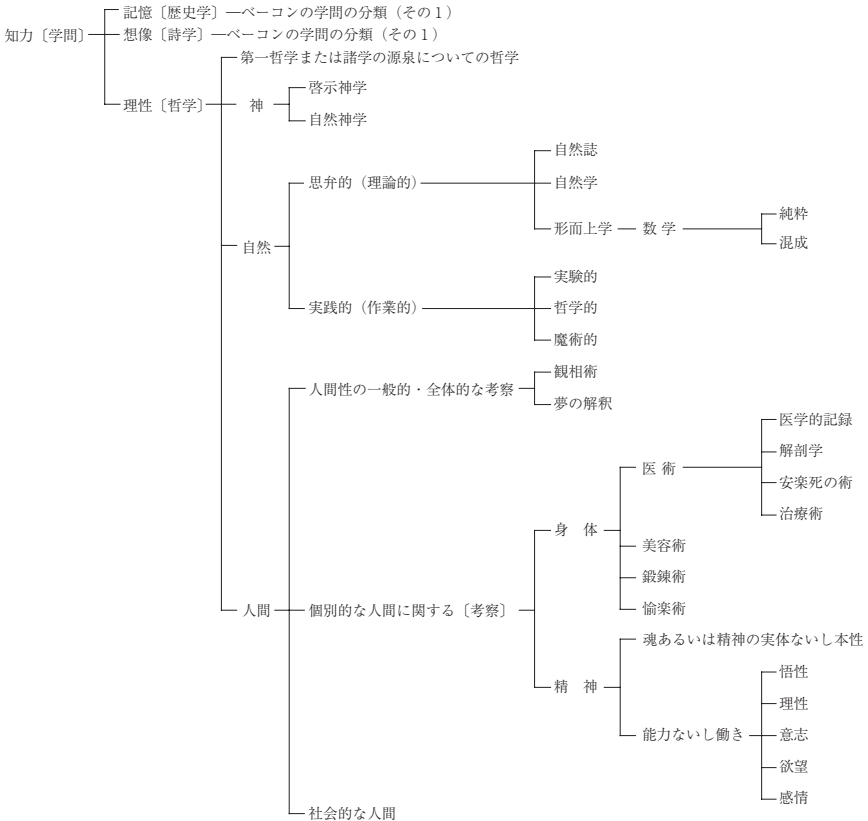


図3-2 ベーコンの学問の分類 (その2)

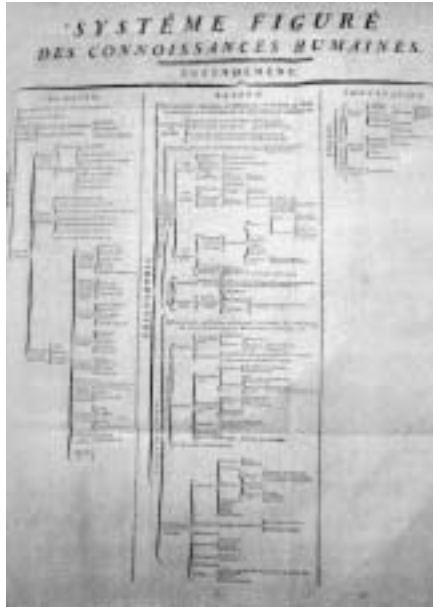


備考) 桑原武夫訳編・前掲書364-365頁による。

ベーコンは人間の学問の諸分野は人間の三つの悟性に関係があるという⁸⁾。三つの悟性は記憶、想像、理性である。これら三つは人間の学問の場所となる。記憶に関する学問の場所は「歴史学」であり、想像に関する学問の場所は「詩学」であり、理性に関する学問の場所は「哲学」である。ベーコンは三つの学問の場所を定め、当該場所から学問の諸分野を分類していく。

フランス『百科全書』をディドロとともに編集したダランベールはベーコンの「観念のいくつかを、それもごく少数だけ借用し⁹⁾」、人間知識の系統図を作成した。

図3-3 ダランベールの人間知識の系統図（原図・原文の写真）

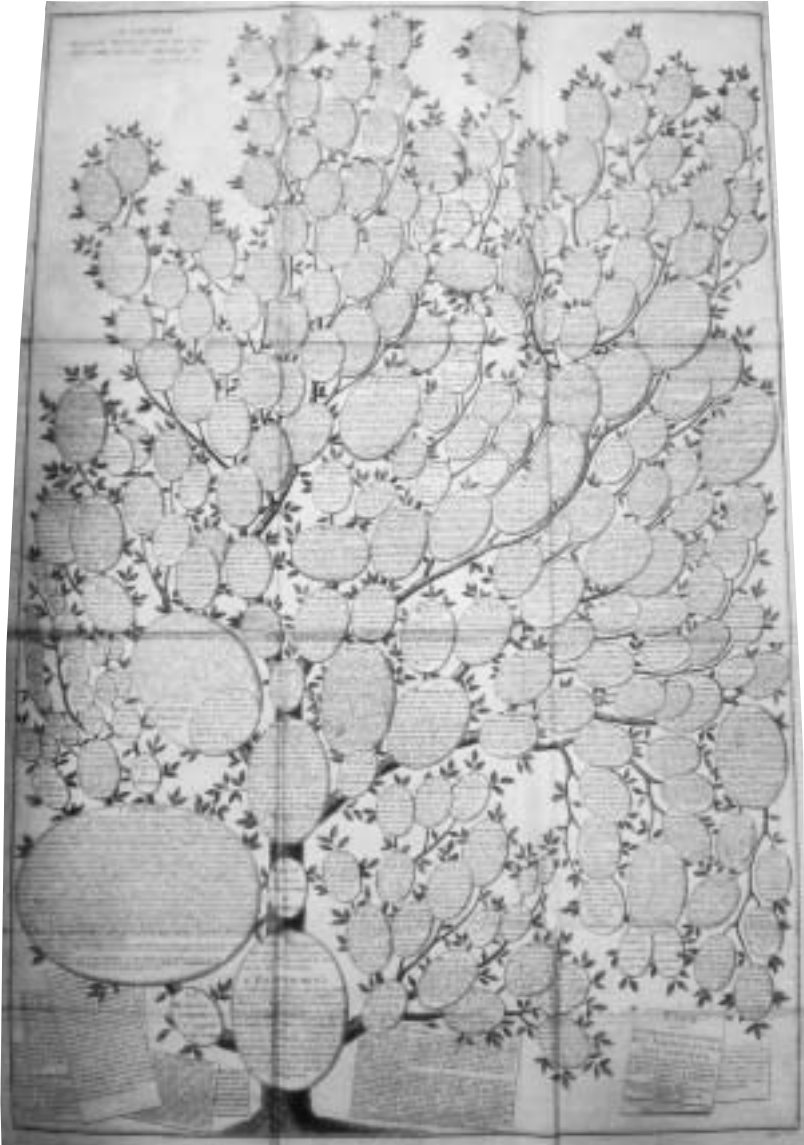


備考) *Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, t. I, 1751.

備考) 邦語訳については参照、桑原武夫訳編・前掲書368-374頁。

しかし、ディドロとダランベールは人間知識の系統関係を樹状に描いた系統樹を作成はしなかった。彼らは代わりに人間知識の分類図を作成した（図3-3）。ダランベールは「人間知識の体系の詳細な説明¹⁰⁾」(*Explication détaillée du système des connaissances humaines*)を書いた。これに基づいてロート(Chrétien Frédéric Guillaume Roth)は1769年に「系統樹」(*Distribution généalogique*)を作った。それは、「一目で人間知識を把握するため¹¹⁾」である。

図3-4 ロートの系統樹（原図・原文の写真）



備考) *Table des matières du dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, t. I, 1780.

4. 系統樹と分類表

本稿は「アドミニストレーションの系統樹」と題した。本稿の題目は「アドミニストレーションの分類表」ではない。系統樹と分類表との違いは何であろうか。

三中信宏は「系統樹思考」(tree-thinking)と「分類思考」(group-thinking)を対比する¹²⁾。系統樹思考は「対象物の間の系譜関係に基づく体系化」であるのに対し、分類思考は「同じ対象物を離散カテゴリー化によって体系化すること」である。系統樹思考は事象の分岐順序や祖先子孫関係を体系化する思考方法であるのに対し、分類思考は眼前にある事象そのものをカテゴリー化(=分類群の階層構造化)する思考方法である。

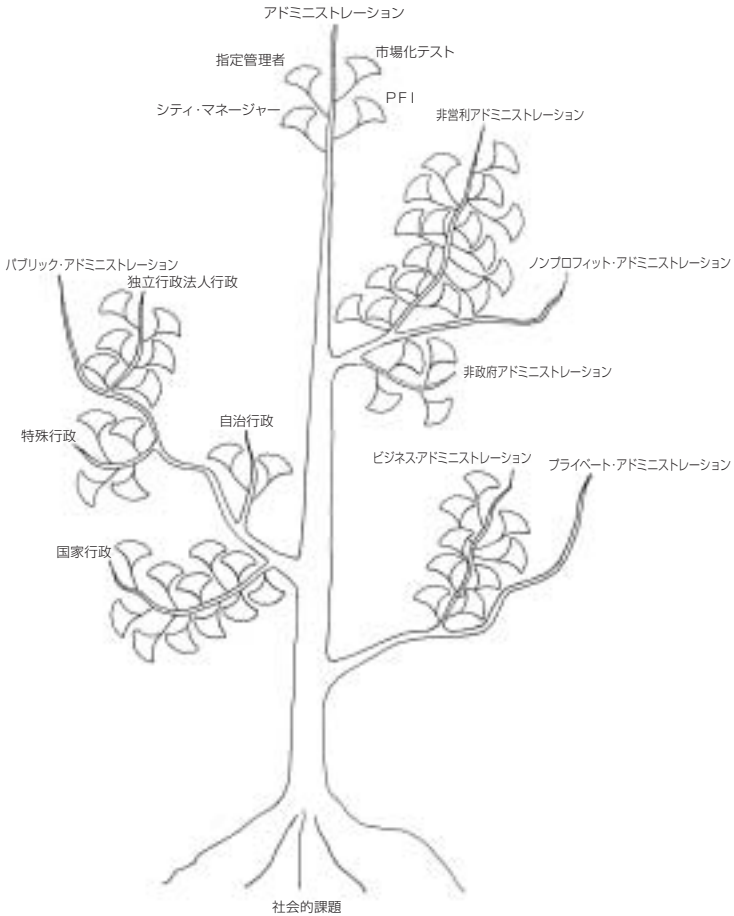
人間は言語を使うようになると、彼の「頭の中に語が階層的に記憶されているはずである¹³⁾」から、人間の性向は分類性向や分類性癖になる¹⁴⁾。しかし、系統樹思考は人間の分類性向や分類性癖による分類思考とは対立する。分類性向や分類性癖が人間に生得的に備わっているので、人間は「生まれながらの分類思考者¹⁵⁾」である。これに対し系統樹思考は人間の性向や性癖ではないので、これを意識的に行う必要がある¹⁶⁾。

本稿は、これら二つの思考方法のうち、系統樹思考方法によって社会現象であるアドミニストレーションの系譜関係を体系化しようとするものである。それは個別具体のアドミニストレーションの間には分岐順序やいわゆる祖先子孫関係が認められるからである。系統樹思考方法によって多くの個別具体のアドミニストレーションはその本質において同一であることがわかる。例えば、パブリック・アドミニストレーションとプライベート・アドミニストレーションにはそれぞれに本質的に相容れない性質があるならば、アドミニストレーションの系統樹は理論上存在不可能である。

5. アドミニストレーションの系統樹

図5は筆者作成のアドミニストレーションの系統樹である。この系統樹は、しかしながら、不十分である。その精緻さは今後の課題である。

図5 アドミニストレーションの系統樹



備考) アドミニストレーションの系統樹は^{いちよう}銀杏の樹をイメージしたものである。

(1) アドミニストレーションの根

アドミニストレーションの根はアドミニストレーションの元をなす部分である。それはアドミニストレーションが成長するためのものである。アドミニストレーションはどこに根を下ろすのであろうか。

人間は「その誕生から死にいたるまで〔他の〕人間の援助を必要とする¹⁷⁾」存在であるから、絶えず他の人間との関係を維持しなければならない。他の人間との関係は人間の生存にとって欠くことのできないものである。この関係の結果が「社会」《société》である¹⁸⁾。したがって、社会は「人間の生活需要の一般的・全体的な補完・充足のための共同態¹⁹⁾」である。

人間生存のための社会にはさまざまな問題が生じる。例えば、空気、水、土地などの汚染の問題が生じる。人間は空気、水、土地がなければ生存することができないので、これらの汚染の問題は人間の健康な生活を脅かすばかりではなく人間生存そのものを危機に陥れることになる。また、例えば、住宅、橋梁、道路、鉄道、空港、港湾、上下水道などの建設の問題が生じる。これらの建設の問題は、今日では、人間生存そのものにかかわる問題でもある。さらに、無差別殺戮のテロリズムがある。このテロリズムから多くの人の安全を確保しなければならない問題が生じる。この安全確保の問題は人間の生存そのものに直接かかわるものである。このように人間が生存するうえで生じる社会的問題が社会的課題である。

社会的課題は処理しなければならない。もし処理しないならば、人間生存は不能である。しかし、社会的課題の処理は一人ではできず二人以上で行われる。所与の目的を実現するためには二人以上の集団的協働行動が必要である。この行動がアドミニストレーション (administration) である。その原初形態は、サイモンという、二人が力を合わせて大きな石を動かす行動に見出すことができる²⁰⁾。

アドミニストレーションは社会的課題が発生し、それを処理するために根を

下ろし張るのである。アドミニストレーションは所与の目的を実現するための集団的協働行動であるから、社会的課題それ自体ではなく、それを処理するための集団的協働行動を意味することばである。

(2) アドミニストレーションの幹

アドミニストレーションの幹はアドミニストレーションの主要な部分である。それは個別具体のアドミニストレーションの共通の祖先部分である。個別具体のアドミニストレーションは共通祖先部分である幹から枝分かれしていく。

社会的課題が発生すると、それを処理しなければならない。しかし、社会的課題の発生時点ではそれを誰が処理するかは未定である。処理主体はア・プリオリ (a priori) に定まっていない。それはア・ポステリオリ (a posteriori) に定まる。

『米欧回覧実記』は鉄道建設という社会的課題の処理方法を三つあげる。「米欧各国ニテ、鉄道ヲ建設スルニ、其法三アリ、一ハ政府ニテ建築開行スルモノナリ、二ハ会社ニテ建築開行スルモノナリ、三ハ政府ニテ建築シ、会社ニテ開行セシムルモノナリ、第一ノ法ヲ主用スルハ白耳義〔ベルギー〕ナリ、第二ノ法ハ、英、仏、及ヒ米ノ合衆国ニテ主用ス、他ノ諸国ハ、三種共ニ行ハル、・・・中略・・・鉄道ノ建築ハ、政府ニテ主行スルモ、会社ニテ主行スルモ、・・・中略・・・利害互ニ備ル・・・中略・・・畢竟其国民ノ景況ト、線路ノ都合トニヨリ、其適宜ヲ酌議ス可キナリ²¹⁾」。これら三つの方法の中から、どの方法をとるかは結局「国民ノ景況」と「線路ノ都合」によって適宜を判断しなければならない。社会的課題の公的処理か私的処理かはその国のときどきの状況によってア・ポステリオリに定まるのであり、ア・プリオリに定まっていない。このことはわが国の鉄道建設の歴史に徴しても明らかである²²⁾。鉄道建設の歴史に限らず、あらゆる社会的課題の処理はあるときは公的にあるときは私的に行われた。社会的課題の処理主体は歴史の一時期に政策的に定まる。

(3) アドミニストレーションの枝

アドミニストレーションの枝はアドミニストレーションの幹、すなわちアドミニストレーションから分かれ出た茎である。それは社会的課題の処理主体を表わす。アドミニストレーションの枝、すなわち社会的課題の処理主体はプライベート・アドミニストレーション (private administration)、パブリック・アドミニストレーション (public administration) およびノンプロフィット・アドミニストレーション (nonprofit administration) である。

ア. プライベート・アドミニストレーションという枝

アドミニストレーションの幹から最初に枝分かれをするのはプライベート・アドミニストレーションである。

社会的課題の処理主体を歴史的にみると、社会的課題の処理は初めは私的に行われた。「はじめに私ありき」である。アメリカでの社会的課題 (例えば自分の身の安全を守ること、子供に算数や国語を教えること) の処理の歴史をみると、これらは初めは私的に処理された。「初めに民ありき」である²³⁾。アメリカでの社会的課題の処理方法は日本にも当てはまる。日本でも社会的課題の処理方法は私的に始まり、ついで公的処理に移っていった。近時の官 (公) から民 (私) への流れは本来のそれに回帰したといえよう。

イ. パブリック・アドミニストレーションという枝

しかし、社会的課題の中には私的に処理することができないものがある。私人では対処不能なものがある。私的に処理することができない部分を補完する必要がある。このためにアドミニストレーションの幹からパブリック・アドミニストレーションが枝分かれする。公 (パブリック・アドミニストレーション) は私 (プライベート・アドミニストレーション) の補完として現われる。社会的課題の公的処理 (パブリック・アドミニストレーション) は「私と私的公共性〔複数の私人に共通の課題〕の限界を補うもの²⁴⁾」である。

ウ. ノンプロフィット・アドミニストレーションという枝

近時、公私の中間に位置し、グレーゾーン組織といわれる非政府組織（nongovernmental organization）や非営利組織（nonprofit organization）の出現が顕著である。これらの組織が行う活動をノンプロフィット・アドミニストレーションと呼びたい。アドミニストレーションの幹からノンプロフィット・アドミニストレーションが枝分かれする。ノンプロフィット・アドミニストレーションは性質的には私（プライベート・アドミニストレーション）と公（パブリック・アドミニストレーション）との中間に位置するが、発生史的には両者の後になる。

(4) アドミニストレーションの針状

アドミニストレーションの針状とはアドミニストレーションの枝、すなわちプライベート・アドミニストレーション、パブリック・アドミニストレーション、ノンプロフィット・アドミニストレーションから更に分かれ出た茎をいう。それはプライベート・アドミニストレーション、パブリック・アドミニストレーションおよびノンプロフィット・アドミニストレーションが更に分化した部分である。

ア. プライベート・アドミニストレーションの針状

プライベート・アドミニストレーションの針状にはビジネス・アドミニストレーションがある。

イ. パブリック・アドミニストレーションの針状

パブリック・アドミニストレーションの針状には、まず国家のアドミニストレーションとしての国家行政がある。ついで、地方自治体のアドミニストレーションとしての自治行政がある。さらに、特殊法人のアドミニストレーションとしての特殊行政がある。最後に、特殊法人の独立行政法人化による独立行政法人のアドミニストレーションとしての独立行政法人行政がある。

ウ. ノンプロフィット・アドミニストレーションの針状

ノンプロフィット・アドミニストレーションの針状には、まず非政府組織のアドミニストレーションとしての非政府アドミニストレーションがある。ついで、非営利組織のアドミニストレーションとしての非営利アドミニストレーションがある。

(5) アドミニストレーションの葉

アドミニストレーションの葉はアドミニストレーションの針状、すなわちビジネス・アドミニストレーション、国家行政、自治行政、特殊行政、独立行政法人行政、非政府アドミニストレーション、非営利アドミニストレーションから出た葉状のものである。アドミニストレーションの葉には個別のアドミニストレーション主体の内部活動（例えば人事、財務などの活動）は含まれない。アドミニストレーションの葉は個別のアドミニストレーション主体の最先端に位置し、社会に対する活動（対社会的活動）であるからである。

ア. ビジネス・アドミニストレーションの葉

ビジネス・アドミニストレーションの葉には工業経営、商業経営、金融業経営、倉庫業経営、交通業経営、農業経営のほか²⁵⁾、観光・レジャー業経営、林業経営、漁業経営、病院経営などがある。

イ. 国家行政の葉

「国家行政組織法」は「国の行政事務の能率的な遂行のために必要な国家行政組織」（1条）として省を設けている。これらの省の遂行する行政は総務行政、法務行政、外務行政、財務行政、文部科学行政、厚生労働行政、農林水産行政、経済産業行政、国土交通行政、環境行政および防衛行政である。さらに、省の外局として置かれる委員会および庁はそれぞれ行政を遂行している。

ウ. 自治行政の葉

自治行政の葉には自治事務と法定受託事務がある。自治事務は「地方公共団体が処理する事務のうち、法定受託事務以外のもの」（地方自治法2条8項）で

ある。法定受託事務は法律またはこれに基づく政令により地方自治体が受託するものである（地方自治法2条9項）。

エ. 特殊行政の葉

特殊行政の葉には、例えば、日本中央競馬会、日本放送協会、沖縄振興開発金融公庫、日本私立学校振興・共済事業団などの行う特殊行政がある。

オ. 独立行政法人行政の葉

独立行政法人行政の葉には、例えば、独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター、独立行政法人水資源機構、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、独立行政法人都市再生機構、独立行政法人国際協力機構などの行う行政がある。

カ. 非政府アドミニストレーションの葉

非政府アドミニストレーションの葉には、例えば、日本キリスト教海外医療協会（JOCS）、産業・精神・文化促進国際機構（OISCA）、シャプラニール、アジア学院などがある。

キ. 非営利アドミニストレーションの葉

非営利アドミニストレーションの葉には「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」、「社会教育の推進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」、「環境の保全を図る活動」、「災害救援活動」、「地域安全活動」、「人権の擁護又は平和の推進を図る活動」、「国際協力の活動」、「男女共同参画社会の形成の促進を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」、「情報化社会の発展を図る活動」、「科学技術の振興を図る活動」、「経済活動の活性化を図る活動」、「職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動」、「消費者の保護を図る活動」、以上の「活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動」がある（特定非営利活動促進法別表）。

特定非営利活動促進法によって設立の認証を受けた最初の法人は「ふらの演劇工房」（北海道）である²⁶⁾。

(6) 再びアドミニストレーションの幹へ

「行政観の歴史の変遷」を跡づけた手島孝は「公私の両領域と決定－執行の両機能すべての統合的把握²⁷⁾」、すなわち「行政と政治と私経営それぞれの本来の場と機能は明確に同定しつつ螺旋状高次元で三者を統一的に捉える段階²⁸⁾」を最終的なものとする。この段階に次の、先の段階の有無については、それは「あるかも知れない。ないのかも知れない²⁹⁾」という。しかし、「将来への展望として一つの仮説」が提出される。提出仮説は「行政観からアドミニストレーション史観へ³⁰⁾」である。この仮説が「公行政は、今や、政治機能を併呑しつつ、私経営との等質性を本質的次元にまで顕在化しつつある³¹⁾」現象に基づいていることはいうまでもなからう。

この現象はアドミニストレーションの幹から枝分かれした、とりわけパブリック・アドミニストレーションとプライベート・アドミニストレーションとが再びアドミニストレーションの幹に収斂することを意味する。生物学にいう収斂は「生物進化の過程で、系統の異なる生物が次第に形質が似てくること」(『広辞苑』)である。これを本稿の文脈で用いると、収斂はアドミニストレーションの分化過程で系統の異なる個別具体のアドミニストレーションが次第に同一化することである。ここに同一化とは、パブリック・アドミニストレーションにおける処理方法(行政の仕事の仕方)とプライベート・アドミニストレーション、とくにビジネス・アドミニストレーションにおける処理方法(民間企業の仕事の仕方)とが同じになり、両者の処理方法を区別することができなくなることをいう。つとに国外ではパブリック・アドミニストレーションとプライベート・アドミニストレーションとの間の「収斂」(“Konvergenz”, “convergency”)現象に注目する研究が見られる³²⁾。

パブリック・アドミニストレーションとビジネス・アドミニストレーションの同一化に関するわが国の具体例に公共施設等の建設・管理運営等を民間の資金・経営能力等を活用して行うPFI制度、公の施設の設置の目的を効果的に達

成するための指定管理者制度、公共サービスに関し官民競争入札を行い当該サービスを提供するための市場化テスト（官民競争入札制度）などがある。

パブリック・アドミニストレーションとビジネス・アドミニストレーションの同一化に関して、わが国にない制度にシティ・マネージャー制度（City Manager）がある。シティ・マネージャー制度は「市政を企業会社の経営と同じに見立て、企業会社に適用される方法を市政に適用しようとする³³⁾」ものである。敷衍して言えば、シティ・マネージャー制度は「“株主—取締役会—社長”の関係を“有権者—議会—マネジャー”の関係にそのまま転用したもの³⁴⁾」である。

- 1) デイドロ、ダランペール編（桑原武夫訳編『百科全書—序論および代表項目—』岩波書店、1971年、64頁。*Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, t. I, 1751, p. .（『百科全書』初版の原本は熊本県立大学附属図書館所蔵）。
- 2) 三中信宏著『系統樹思考の世界—すべてはツリーとともに—』講談社、2006年、26頁。
- 3) 内井惣七著『ダーウィンの思想—人間と動物のあいだ—』岩波書店、2009年。
- 4) 参照、三中信宏著・前掲書『系統樹思考の世界』23頁。
- 5) 参照、同上書・108頁。
- 6) ルルの学問の樹に関する以下の叙述は三中信宏著・同上書89頁に負っている。
- 7) 同上書・90-92頁。
- 8) 成田成寿訳『ベーコン』（福原麟太郎編『世界の名著』第20巻）、中央公論社、1970年、326頁。
- 9) 桑原武夫訳編・前掲書13頁
- 10) *Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, t. I, 1751, pp. xlvii-lii.
- 11) *Table des matières du dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers*, t. I, 1780.
- 12) 三中信宏著・前掲書『系統樹思考の世界』121頁。
- 13) 吉田政幸『分類学からの出発』中央公論社、1993年、178頁。

- 14) 同上書・196頁、三中信宏著・前掲書『系統樹思考の世界』122頁。
- 15) 三中信宏著・前掲書『系統樹思考の世界』124頁。
- 16) 同上書・124頁。
- 17) Charles-Jean Bonnin, *Principes d'administration publique*, 3^e éd., t.I, 1812, p.75.
- 18) *Ibid.*, pp.65-66.
- 19) 手島孝著『現代行政国家論』勁草書房、1969年、20頁。
- 20) H.A.Simon, V.A.Thompson & D.W.Smithburg, *Public Administration*, 1991 (年版による), p.3. (岡本康雄・河合忠彦・増田孝治訳『組織と管理の基礎理論』ダイヤモンド社、1977年、3頁)。
- 21) 久米邦武編・田中彰校注『米欧回覧実記(三)』岩波文庫、1979年、170-172頁。
- 22) 参照、宇田正「鉄道国有化」(森川英正編『日本の企業と国家』日本経営史講座第4巻、日本経済新聞社、1976年)。
- 23) 寄本勝美「『初めに民ありき』—公共をめぐる日米の比較—」(『地方自治職員研修』35巻3号、2002年、11-12頁。新藤宗幸著『新版・行政ってなんだろう』岩波書店、2008年、4-9頁)。
- 24) 寄本勝美・同上論文12頁。
- 25) 中村常次郎・高柳暁編著『経営学』第3版、有斐閣、1987年、3-4頁。
- 26) 中村陽一・日本NPOセンター編『日本のNPO/2000』日本評論社、1999年、21頁。
- 27) 手島孝著『総合管理学序説』有斐閣、1999年、62頁。
- 28) 同上書・62頁。
- 29) 同上書・67頁。
- 30) 同上書・67頁。
- 31) 同上書・67頁。
- 32) “Konvergenz” は H.Bosetzky, P.Heinrich, “Verwaltung”, *Handwörterbuch der Betriebspsychologie und Betriebssoziologie*, 1981, S.379. “convergency” は H.Strunz, *Administration: public and private management today*, 1995, p.54.
- 33) 吉村正著『シティ・マネージャー』東海大学出版会、1977年、27頁。
- 34) 手島孝著・前掲書『総合管理学序説』61頁。